

環境・安全教育・防災・命の 教え込むのではなく、子どもたち自身に意識を

地域社会で安全に生活できるように、地域とのつながりに配慮するとともに、子どもたち自身が日ごろより意識し、考え、たくましく生き抜くことができるよう、紙面を工夫しています。

そとでのかつどうのやくそく



たんけんにいこう

たんけんのじゅんび

- うごきやすいふく
- ぼうし
- たんけんパックなど
- デジタルカメラなど
- ハンガキ
- ポケットティッシュ



のはらでは

- ながそで、ながズボン

やくそく

いきものにやさしく



ごみはもちかえる

あぶない

「さわらない」、「ちかづかない」のやくそくをまもろ。



自然とかかわる中では、環境保全の意識と、子どもたち自身の安全確保が大事になります。

こんなときどうしよう

こまつたどきにどうするか
かんがえておこう。



こども110番

2

3

別冊 P.2~3

かたづけ 大作せん

つかえるものはもういちどつかうよ



リサイクルのために分けて出そう



おちばや草花もかたづけよう



下巻 P.55

たいせつな
いのちだから
つかまえすぎない
ようにしよう。

くさはら
草原

水べ



生態系への配慮や、資源の有効活用など、
基本的な環境意識を押さえています。

下巻 P.124

124



教育

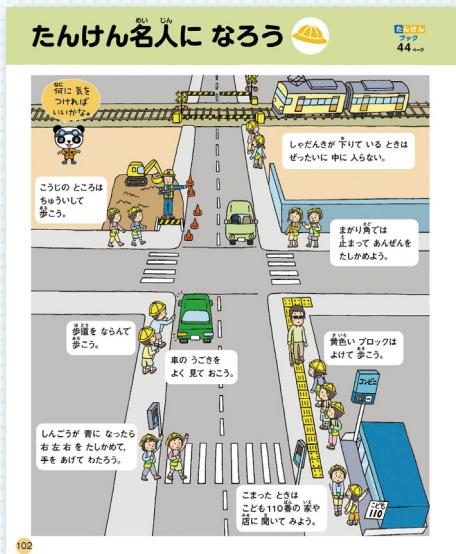
通学路の安全確保、子どもの日ごろからの意識の持ち方は最重要課題です。上巻の最初の単元、巻末資料やたんけんブックでしっかりと押さえています。



別冊 P.44~45

上巻 P.8~9

町たんけんではさらに行動範囲が広がるため、マナーや安全に関わる約束事など大切なことに触っています。



102



下巻 P.25

あんしん あんぜん



45

別冊 P.44~45

上巻 P.8~9

夏休みなどの長期休暇の過ごし方でも、安全面に配慮しています。



下巻 P.49



上巻 P.59

防災・減災と生活科の融合を

日ごろからの意識づけもさることながら、学校の周り探検や町たんけんなどで目にする、不思議なものに興味をもつという、生活科本来の趣旨も大事にしながら紙面を構成しています。



上巻 P.24 ~ 25

下巻 P.73

本編では、探検時に目にする多様なものの一例として、防災に関わるものを紹介しています。本編内では安全教育を目的化するのではなく、生活科本来の趣旨も大事にしながら、紙面を構成するように心がけました。



上巻 P.133

上巻末では屋内も含めた安全を、たんけんブックでは野外に特化した安全を掲載しています。

また、家人の人と逃げる場所を決めておく書き込みを設け、たんけんブックが非常時でも役立つ本になるようにと考えています。

あんしん あんぜん



別冊 P.46 ~ 47



生き物とのふれ合いにも配慮

生き物とのふれ合いには、その温かさが紙面からも伝わるように写真を厳選しました。
また、生き物と接する際、生き物の事を考えて接することができるよう、紙面を工夫しました。
生き物とのふれ合いは、道徳心を養うことにも有効です。



上巻 P.60 ~ 61



下卷 P.114

生き物の気持ちになって、接し方を考える巻末資料も設けました。

衛生面にも配慮



下卷 P.56 ~ 57

衛生面にも特段の配慮を行いました。例えば、栽培活動で収穫した生野菜については家庭での管理のもとで食べるように促し、また、飼育動物については、環境省により要注意外来生物に指定され、ザリガニカビ病などの衛生面の不安のあるアメリカザリガニを掲載せず、より安全なバッタをメイン素材として位置づけました。